

ストーンベニア マルチボンド (ST-VE-MB1000)

JIS A 5548 タイプ I F★★★★
JIS A 5557
JAIA 4VOC 基準適合



※画像は実際の商品と異なる場合がございます。

販売価格：¥2,140/パック

変成シリコーン・エポキシ樹脂系接着剤

化学反応形無溶剤タイプ
指定可燃物 可燃性固体類

一液反応形の変成シリコーン・エポキシ樹脂系溶剤です。硬化後はゴム状の弾力性を持つため、下地変形や熱膨張などによる応力を緩和します。セメント目地不要工法としてもご使用いただけます。

容量	包装形態	梱包単位
2kg	フィルムパック	

色・品番一覧 ※色見本は現物と多少異なる場合があります。

色	品番	色	品番	色	品番
オフホワイト	ST-VE-MB1000W	ベージュ	ST-VE-MB1000BG	グレー	ST-VE-MB1000G
		ダークグレー	ST-VE-MB1000DG	ブラック	ST-VE-MB1000BK

用途

適用箇所	屋内及び屋外の壁面
適用下地	内装 モルタル、ケイ酸カルシウムボードなどのボード類
	外装 コンクリート、モルタル、サイディングボードなどのボード類

標準使用量 (ボード類下地の場合)

2.0~2.5kg/m ²
0.8~1.0m ² /2kg

性質

外観	マスチック状
主成分	変成シリコーン・エポキシ樹脂
張付け可能時間	5℃ 120分以内
	23℃ 90分以内
	35℃ 60分以内
硬化時間 (目地詰め可能時間)	5℃ 3日
	23℃ 1日
	35℃ 1日

(注) 空気の対流が少ない箇所で使用すると臭気が残る可能性があります。

注意事項

- 接着剤が完全硬化するまで臭いが残ることがあります。施工中だけでなく、施工後1週間程度空気が籠らない工夫を行って下さい。
- 接着用途以外に絶対に使用しないで下さい。
- 品種の異なる材料と混合しないで下さい。
- 5~35℃の環境で使用・保管して下さい。
- 取扱い場所及び作業場所は換気頻度を多く行って下さい。(施工中は窓を開け、施工後も日中は4~5日間、常に窓を開ける)

使用方法

【下地の確認】

●モルタル下地の場合

下地は、平坦・平滑に仕上げ、施工後2週間(冬期は4週間)以上養生し、よく乾燥していることを確認します。

●ボード類下地の場合

タワミのない厚手の合板またはボード類を使用し、目地違いや目地あきのない下地とします。

【下地の調整及び清掃】

1. モルタル下地に凸部がある場合は、サンダー掛けやケレン処理により平滑にします。凹部がある場合は、下地補修材で平滑にします。

2. モルタル下地のもろい部分やレイトランスは必ず取り除いてから下地補修材で平滑に仕上げます。

3. 下地面及び被着体のゴミ・ホコリ・油分・錆・塗料などは接着不良の原因となりますので取り除きます。

【墨出し】

1. 割り付け図面に従い墨出しを行います。

【接着剤の塗布】

1. 接着剤を平ゴテを用いて、下地に押し付けるよう均一に(5~7mm厚)に塗布します。

※1回の塗布面積は張付け可能時間内に仕上材を張り終えることのできる面積として下さい。

2. 接着剤を塗布した後、クシ目ゴテを用いて均一にクシ目を立てます。

※厚塗り、薄塗り、塗布むらなどは接着不良の原因となりますので注意して下さい。

3. セメント目地不要工法で施工する場合は、平ゴテでクシ目をならし均一な接着層にします。

※事前に試験張りを行い、有効接着面積を確認して下さい。

有効接着面積が70%以下の場合は7mm角のクシ目ゴテを使用し、使用量を増やして下さい。

【仕上材の張付け】

1. クシ目を立てた後すぐに仕上材を張り始め、張付け可能時間内に張り終わります。

※張付け可能時間は環境により異なります。

2. 仕上材は揉み込むようにして張り、仕上材は裏面全体に接着剤がなじむようにビプラートなどで十分に圧着します。

3. 約2㎡ごとに仕上材を1枚剥がし、仕上材裏面に接着剤が70%以上付着していることを確認します。

※仕上材表面に付着した接着剤は硬化する前にシンナーなどを含ませた布で拭き取ってください。

・目地直しは接着剤が硬化する前に行ってください。

【養生】

1. 施工完了後、接着剤を硬化させるために夏期は1日以上、冬季は3日以上外圧が加わらないように養生します。

【目地詰め】

1. 目地詰めを行う前に仕上材のズレがなく又、接着剤が硬化している事を確認します。

2. 目地用ゴムゴテを用いて、目地部に目地材が完全に充てんされるように塗り込みます。

※伸縮目地部や設備機器との取り合い部には弾性目地を充てんしますのでセメント系目地材を塗り込まないで下さい。

3. 仕上材表面に残った目地材はゴムゴテを用いて拭き取った後、湿したスポンジで拭き取ります。

4. 目地材が乾燥した後、乾いた布で拭き取り、仕上げます。

【端部の処理】

1. 伸縮目地部や設備機器との取り合い部には弾性目地を設けず。※弾性目地が硬化するまでは、ホコリやゴミなどが付着しないようにして下さい。

●ストーンベニアマルチボンドをご使用になる前には、商品容器の表示事項をよくお読み下さい。

ストーンベニア ストロングボンド (ST-VE-SB1000)

官民共同研究品質基準(案) 適合品

2液混合形

JIS A 5548 タイプ I F★★★★

JAIA 4VOC 基準適合



販売価格：¥43,500/セット

変成シリコン・エポキシ樹脂系接着剤

化学反応形無溶剤タイプ

指定可燃物 可燃性固体類

エポキシ基とシラノール基をもった変成シリコン・エポキシ樹脂系の2液混合形接着剤です。

硬化後はゴム弾性を示すことにより、下地挙動、材料の膨張伸縮、振動、衝撃などによる応力を吸収緩和し、仕上げ材を守るとともに強靱な接着力を発揮します。

容量		包装形態	梱包単位
15kg	A剤	5kg	1セット
セット	B剤	10kg	

用途

適用箇所	屋外(低層建築物)及び屋内の壁面、プール槽内の壁面など
適用下地	コンクリート、モルタル、FRP、金属窯業系サイディング材、ケイ酸カルシウム板などの各種ボード類

標準使用量

モルタル・乾式下地	1.5~3.0kg/m ²
	5.0~10m ² /15kg
	0.3~0.6m ² /kg

性質

	A剤	B剤
外観	白色マスチック状	灰色マスチック状
主成分	エポキシ樹脂	変成シリコン樹脂
混合比	A剤：B剤=1：2	
可使時間	60分以内/23℃	
張付け可能時間	60分以内/23℃	
目地詰め可能時間	24時間以上/23℃	

(注) 空気の対流が少ない箇所で使用すると臭が残る可能性があります。

注意事項

- 接着剤が完全硬化するまで臭が残ることがあります。施工中だけでなく、施工後1週間程度空気がこもらない工夫を行って下さい。
- 塗装面・ガラス面・浴槽内・常時70℃以上となる所には使用できません。
- 品種の異なる接着剤と混合しないで下さい。
- 一度混ぜ合わせた接着剤は保管できません。(混合物は容器にもどさないで下さい。)
- 5~35℃の環境で使用・保管して下さい。
- 取扱い場所及び作業箇所は換気頻度を多く行って下さい。(施工中は窓を開け、施工後も日中は4~5日間、常に窓を開ける)

使用方法

【下地の確認】

●コンクリート・モルタル下地

下地は凹凸や不陸のない平滑面とし、浮き水のないことを確認します。

●ボード類下地

タワミのない厚手の材料を使用し、目違いや目地あきのない下地とします。

【下地の清掃】

1. 接着不良の原因となるゴミ・ホコリ・油分・レイタンスなどを除去します。

※接着不良の原因となる可能性がありますので、吸水調整剤などは塗布しないで下さい。

【墨出し】

1. 割り付け図面に従い墨出しを行います。

【接着剤の混ぜ合わせ】

1. 接着剤のA剤とB剤を1対2の割合(重量比)になるように取り出します。

※接着剤を取り出す時はA剤とB剤では別々のヘラを使用して下さい。

・B剤は空気中の水分の影響により皮張りを起こしますので、取り出し時以外は蓋をして下さい。

2. 取り出した接着剤を色が均一になるまで、よく混ぜ合わせます。

※一度に混ぜ合わせる量は可使時間内に使い切れる量にして下さい。

・一度混ぜ合わせた接着剤は保管できません。

・A剤とB剤がよく混合されていないと接着不良や石材への汚染の原因となりますので注意して下さい。

【接着剤の塗布】

1. 接着剤は左官ゴテを用いて下地に擦り付けるように均一に塗布します。(3~4mm厚)

※一回の塗布面積は張付け可能時間内に仕上げ材を張り終えることのできる面積として下さい。

2. 接着剤を塗布した後、クシ目ゴテを用いてクシ目を立てます。

※厚塗り・塗布ムラ・薄塗りなどは接着不良の原因となります。

【仕上げ材の張り付け】

1. クシ目を立てた後すぐに仕上げ材を張り始め、張付け可能時間内に張り終わります。

チェック：張付け可能時間は環境により異なります。

2. 仕上げ材はもみ込むようにして張り、裏面全体に接着剤がなじむようにピプラートなどの衝撃機具を使用して十分に圧着します。

3. 約2m²ごとに仕上げ材を1枚剥がし、裏面に接着剤が70%以上付着していることを確認します。

※接着剤がタイル表面に付着した時は、すぐにシンナーなどを含ませた布で拭き取って下さい。

・目地直しは接着剤が硬化する前(張り付け後30分以内)に行ってください。

【養生】

1. 接着剤を硬化させるため仕上げ材張り付け後1日以上外力が加わらないように養生します。

【目地詰め】

1. 目地詰めを行なう前に仕上げ材のズレがなく、また、接着剤が硬化していることを確認します。

2. 目地部に目地材を充てんします。

※伸縮目地や設備機器との取り合い部には、弾性目地を充てんしますのでセメント系目地材を施工しないで下さい。

3. 表面に残った目地材を拭き取ります。

【端部の処理】

1. 伸縮目地や設備機器との取り合い部には弾性目地を設けず。※弾性目地が硬化するまでは、ホコリやゴミなどが付着しないようにして下さい。

※画像は実際の商品と異なる場合がございます。